

令和6年10月29日	
所 属	生活安全課
所属長	北 明德
電 話	06-6489-6502

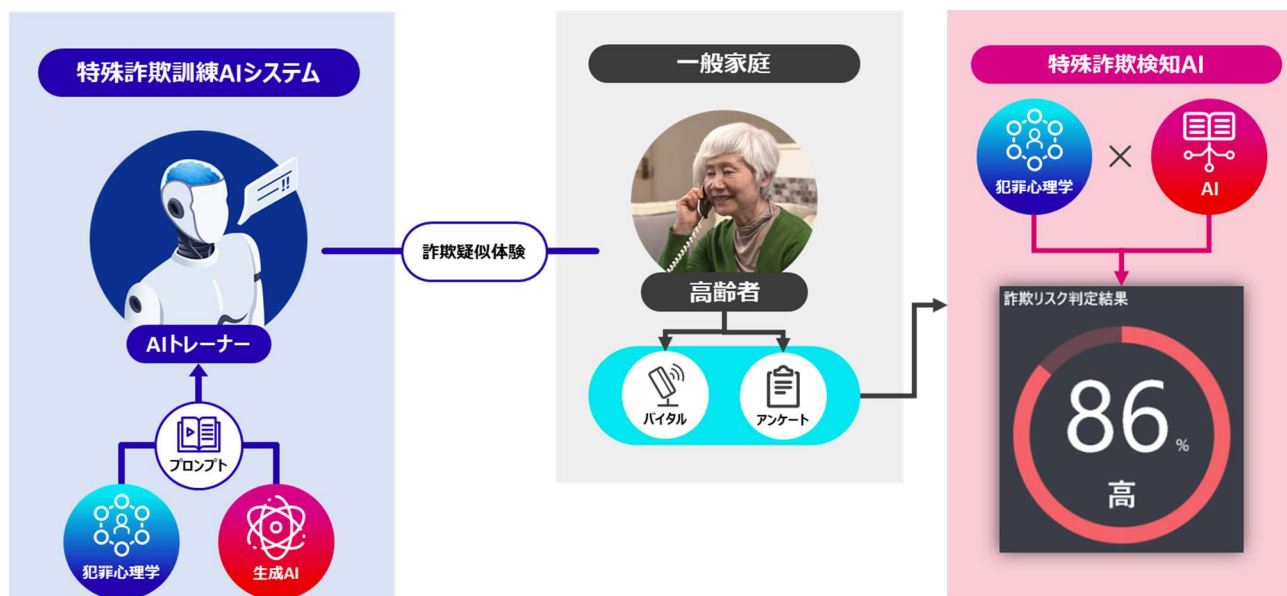
日本初！A Iがお茶の間で特殊詐欺を見抜く実証実験を開始

～バイタルサインで、自宅でも特殊詐欺被害を防げるか？～

尼崎市では、複雑化かつ巧妙化する特殊詐欺の撲滅に向けて、令和4年度から学校法人東洋大学（注1）・富士通株式会社（注2）と共に、A I（人工知能）と犯罪心理学を組み合わせ、被害者の心理状態を推定しリスクを可視化することで特殊詐欺を未然に防止する日本初の共同研究を行ってきました。

共同研究の最終段階として、一般家庭でA Iと犯罪心理学を組み合わせた特殊詐欺リスクを検知する日本初の実証実験を実施します。市内在住の高齢者宅内にバイタルサイン（脈拍・呼吸数）を検知できる非接触センサーを設置し、併せて腕時計型のセンサーを着用していただきます。実証期間中、最新の特殊詐欺の手口を模倣した電話を、特殊詐欺訓練A Iシステム（以下、訓練A Iツール）から発信し、疑似特殊詐欺電話を自宅で体験していただきます。

今回はこれまでの市役所や商業施設で実施した体験会とは異なり、訓練A Iツールからかかってくる電話に家庭内で応対してもらいます。より日常生活に即した状況で、高齢者が特殊詐欺を体験している状態をA Iと犯罪心理学を組み合わせた特殊詐欺検知A Iが解析を行い、特殊詐欺リスク検知技術の検証を行います。巧妙に変化する特殊詐欺に対し、被害者のバイタルサインを活用することで、あらゆる特殊詐欺を検知できる技術の検証を行います。本技術を通じて、一人でも多くの人が安心して生活できる社会の実現に貢献していきます。



※プロンプト…具体的な要求、制約などの指示

【図1】実証実験イメージ図

1 実証実験の概要

(1) 実証実験期間

第1週 令和6年11月 5日（火）～ 8日（金）

第2週 11月11日（月）～15日（金）

第3週 11月18日（月）～22日（金）

第4週 11月25日（月）～29日（金）

(2) 参加者

22名

(3) 実証方法

- ・訓練A I ツールが特殊詐欺の手口を再現し、会話型の詐欺電話を体験
特殊詐欺の手口を再現した訓練A I ツールから高齢者宅に電話をかけ、会話中のバイタルサインを室内設置の非接触センサーと腕時計型センサーの両方で測定します。
- ・検知技術の検証
事前アンケートや、体験中に各センサーから測定されたバイタルサインに基づき、心理状態を分析し、特殊詐欺リスク検知技術の有効性を検証します。

※実証実験参加者への取材に関して

11月8日（金）に参加者宅で取材頂くことができますので、ご取材いただける場合は、11月7日（木）午前までに生活安全課（担当：安田・岡部）までご連絡ください。

TEL：06-6489-6502

（注1）学校法人東洋大学：所在地 東京都文京区 理事長 安齋 隆

本研究では、社会学部長である桐生正幸教授のもと、東洋大学が開発した心理尺度を用いた心理状態の測定や分析を行います。



東洋大学
桐生教授

桐生教授は、科学捜査研究所で犯罪心理に関する検査や分析を行っていた経歴を持ち、現在東洋大学社会学部長を担うなか、社会心理学科の教授として、統計手法を用いた犯罪心理学に関する研究を行っています。また、日本犯罪心理学会常任理事や日本カスタマーハラスメント対応協会理事を務められています。

（注2）富士通株式会社：本店 神奈川県川崎市 代表取締役社長 時田 隆仁

本研究では、富士通株式会社の研究部門の1つであるコンバージングテクノロジー研究所が、デジタル技術と人文社会科学を融合した特殊詐欺防止技術の開発を行います。



富士通（株）
コンバージングテ
クノロジー研究所

本研究所では、富士通が長年培ってきた自然科学の知見をベースに、人と社会にフォーカスして異分野融合を進めており、デジタル技術と人文社会科学の融合により、人と社会を深く理解して働きかけ社会課題を解決するコンバージングテクノロジー（融合技術）の実現を目指しています

≪特殊詐欺訓練A I ツールの実証実験の様子≫ ※YouTube

令和5年11月30日～12月1日の2日間、尼崎市にて実施した特殊詐欺訓練A I ツールを使った実証実験の様子です。



なお、これまでの共同研究の経緯経過についてはホームページに記載しております。

以上